

ニュースリリース

2025 年 6 月 23 日

NIPPON EXPRESS ホールディングス株式会社

日本貨物鉄道株式会社

株式会社 T2

国内初、自動運転トラックと貨物鉄道によるモーダルコンビネーション実証開始

～第一弾として北海道－関西間を輸送～

NIPPON EXPRESS ホールディングス株式会社（代表取締役社長：堀切 智）のグループ会社、日本通運株式会社（代表取締役社長：竹添 進二郎、以下「日本通運」）、日本貨物鉄道株式会社（代表取締役社長：犬飼 新、以下「JR 貨物」）、株式会社 T2（代表取締役 CEO：森本 成城、以下「T2」）の3社は、日本国内で初めてとなる自動運転トラックと貨物鉄道を組み合わせた「モーダルコンビネーション」*1の実証を開始しました。

第一弾として、雪印メグミルク株式会社（代表取締役社長：佐藤 雅俊、以下「雪印メグミルク」）の常温品を北海道－関西間で輸送します。今回の実証では T2 が開発したレベル 2*2自動運転トラックによる幹線輸送に取り組みつつ、今後、T2 が 2027 年から開始を予定しているレベル 4*3自動運転トラックを用いたモーダルコンビネーションも視野に入れ、国内初となる新たな輸送モデルが確立できるか検証を行います。



本取り組みは、地球環境問題への対応や物流業界の労働環境改善、労働力不足の解消など、持続可能な物流の実現を目指し、2024 年 11 月より日本通運・全国通運（代表取締役社長：吉澤 淳）・日本フレートライナー（代表取締役社長：峯 昭彦）・JR 貨物・T2 の5社で、検討を進めてまいりました。

貨物鉄道輸送の全国ネットワークと、T2 が有する自動運転トラック技術を融合させ「自動運転トラック×貨物鉄道」のモーダルコンビネーションを実現することで、自動運転区間における輸送ルートの複線化を構築する他、柔軟な輸送力の増加が可能となる等、物流の可能性を広げることを目的としています。

今回の実証では、JR 貨物と T2 で 31 フィートタイプの共用コンテナを共同開発しました。このコンテナを用いることで、モーダルコンビネーションの際に、貨物列車から T2 のトラックへ直接載せ替えが可能となります。北海道から関東までを JR 貨物の貨物列車で輸送し、関東から関西までの高速道路の一部区間を T2 のレベル 2 自動運転トラックで幹線輸送します。また、日本通運は、貨物駅と顧客の物流拠点間の集貨・配達を担当します。



今回の実証のルート/役割イメージ

【実証概要】

- 期間：2025 年 6 月 20 日～6 月 24 日
 - 対象区間：北海道→関西の発着地（オペレーション全体としての対象）
 - ・雪印メグミルク物流拠点（北海道）→札幌貨物ターミナル駅（北海道）：日本通運のトラック
 - ・札幌貨物ターミナル駅→隅田川駅（東京都）：JR 貨物の貨物列車
 - ・隅田川駅→高速道路および IC 前後の一般道→百済貨物ターミナル駅（大阪府）：T2 のレベル 2 自動運転トラック
 - ・百済貨物ターミナル駅→雪印メグミルク物流拠点（大阪府）：日本通運のトラック
 - 参加企業と役割：
 - ・雪印メグミルク：商品輸送における実証への協力および商品輸送後の品質検証
 - ・日本通運：集貨・配達
 - ・JR 貨物：貨物鉄道区間での輸送および検証
 - ・T2：高速道・専用道での運送区間における自動運転輸送および検証
 - 実証内容：
 - ・隅田川駅における貨物列車から T2 のトラックへの共用コンテナの積み替え作業の検証
 - ・北海道―関西間における一貫オペレーションの検証
 - ・自動運転トラック輸送区間を中心とした輸送品質の検証
- ※実証実験時の自動運転トラック運行はドライバー乗車のもと行います。



T2 の自動運転トラック

- *1 トラックと鉄道の親和性を高め、相互に補完し合う輸送モデル
- *2 ドライバーの監視のもとに行われる特定条件下での高機能自動運転
- *3 特定の走行環境条件を満たす限定された領域において、自動運行装置が運転操作の全部を代替する状態

【各社 WEB サイト】

■ 日本通運株式会社

<https://www.nittsu.co.jp/>

■ 日本貨物鉄道株式会社

<https://www.jrfreight.co.jp/>

■ 株式会社 T2

<https://t2.auto/>

以上